

令和5年度第1回二宮町図書館協議会会議録

開催日時	令和5年5月19日(金)13時30分～15時30分
開催場所	二宮町町民センター 3Bクラブ室
出席者	森英夫教育長、石井敬士会長、桐岡眞澄副会長、相澤るつ子委員、猪俣聡委員、伊庭しげみ委員、内山留美委員、三宅栄子委員
事務局	椎野教育部長、山下生涯学習課長兼図書館長、込山図書館班班長、丹羽図書館班主幹
欠席者	中西美保委員
その他	傍聴希望者なし

※会議次第及び資料は、別添ファイルのとおり

会議記録

1 開会

2 挨拶

森教育長、石井会長より挨拶

3 議題

(1) 図書館利用状況について

事務局より、利用状況について資料1に基づき報告。

(会長) 利用は回復傾向ということであれば、今後はコロナ後の活動について考えてもらえるとういです。

(2) 令和4年度図書館の主な取組・事業(実績報告)

事務局より、令和4年度の主な取組・事業について資料1に基づき報告。

(会長) 重点事業は概ねこなせているという事でしょうか。

(事務局) その通りです。

(3) 令和5年度図書館の主な取組・事業について

事務局より、令和5年度の主な取組・事業について資料1に基づき報告。

(委員) 図書館では、幅広い世代の利用促進をうたっていて、特に子どもと子育て世代に力を入れているという事ですが、年代別統計では、小学生と30代の間で急に数が減っています。中学、高校、仕事を始める20代などは、忙しくて本を読む間がないのか、それとも人口が少ないのでしょうか。学生は学校図書館が充実していて、町図書館に来ないということなら、良いのですが。10代から20代は、仕事の事や悩みなど、様々な情報が必要で最も難しい年代であり、ネットのみの情報で知識が偏らないか心配です。30代で利用が復活するのは子育てで絵本を利用するからでしょうか。40代も増えています

ね。70代は人口も利用も多いと思われます。図書館は利用実績をデータで掴んでいるのだから、この状況を把握して、どの様に対策を考えていますか。

(事務局) 人口比率と利用統計を対比する資料は、今後委員の皆様にお示しするようにします。実際、少子化で学校の一学年当たりの児童生徒数は年々減っていて、町立学校に関していえば、中学校3年生の一学年と小学校1年生の一学年を比べると、大分減っている事が分かります。また、中学に上がる段階で利用が減るならば、そのタイミングで利用を促すような工夫が必要と考えています。

(教育長) 来週、町図書館と学校図書館担当者との連絡会議があります。学校図書館の利用状況もそこで把握できると思うので、学校図書館も含めた子どもの利用傾向を掴む事はできます。事務局の報告にもありましたが、学校との連携としては、町立中学校の図書委員の生徒とのオンラインでの話し合いや、町立小学校の2年生の図書館見学などを行っています。

(委員) 小中学校と連携されているなら良いです。高校生や大学生もそれぞれ学校図書室や図書館があると思いますが、何かあった時のためにも、自分に情報を入れる場所として図書室や図書館がある事を知っていて欲しいです。子どもたちがネットの方に偏ってしまわないように、図書館側から発信してほしいと思います。

(会長) 町の人口統計をみると、平成29年から令和4年までの間で人口が約1,000人減っている。平成29年が27,947人、令和4年が27,067人です。この調子で5年毎に1,000人ずつ減っていく想定にも合わせてサービスを考えなくてはならないでしょう。利用の年齢構成では60代以降が多いが、人口もその年齢層が多いです。小中学生は、人口が少ない。教育長も言われていたが、学校図書館の利用状況と合わせて把握したい所です。中学生から20代位の利用が減っていますが、どういった傾向があるのか。例えば、5年でどの位減少したかといった実態を把握して、今後分析していく必要がありますね。利用者の読書状況について注目し、手当できる事を考えるのが良いでしょう。

(委員) 以前、大和市のシリウスを視察した際、若い世代が沢山来ていました。駅から近い、気軽に入りやすい、図書館として構えないで入れる、おそらく、営業時間の問題もあるのでしょうか。二宮では、若い世代が情報を必要とする時に図書館が開館していない可能性があります。二宮町は人口が減っているが、人口が増えている市町もあります。それは、住民のニーズに合っているからでしょう。二宮では、図書館がどれだけニーズを捉えて、少ない予算で具体的にどの様な対策を考え、どういった方向で進もうとしているかを知りたいです。

(会長) 二宮の人口は、最高時で約31,000人位であり、現在はそこから約4,000人位減っています。利用を増やす努力は必要ですが、今後も人口は減る可能性が高く、利用も減る方向で見ておくべきでしょう。その中で、子どもの利用については特に考慮すべきで、利用も人口も少ないので、利用がもっと増える様にその時々状況に見合った対応が必要です。先ほども出た学校との連携や家庭との連携などをより深めるなどし、もっと町全体に広げて、子どもへの普及が出来るようになると思います。もう一つ、高齢者は、人口的にも利用的にも数字をカバーしてくれているので、維持しつつ更に利用される様にするべきと考えます。それから、不読者層は、大学、高校生の利用が少ないのであれば、その理由を掴む努力をし、対応していく必要がありますね。また、二宮町図書館は、統計データからすると、町民以外にかなり周辺自治体住民の利用が多く、町民と同じ様に二宮の図書館を利用しているといった事も無視できません。これは、広域的に読書が広まっていく要素であり、今後注視していくべき所と考えます。県内全体の図書館の利用状況を見ても、二宮の図書館は利用度が非常に高く、町民の他に周辺住民の利用も影響していると思われます。

#### (4) その他

事務局より資料2について説明。

(会長) この案は、今日初めて協議会委員に示されたものです。計画では今年度から進める様ですが、実際はどのような形で進めていくのでしょうか。

(副会長) リニューアルというが、どの辺りが重点でどの様な形にしていくのでしょうか。計画は図書館が主担当なのか、それとも町が何か他の利用目的も併せてリニューアルするといったことが含まれるのでしょうか。図書館の今の状況をリニューアルする必要性をあまり感じないのですが。

(生涯学習課長) 新庁舎建設、ラディアン、仮称福社会館の3つで、この一帯を新しい町づくりの拠点という形で集約していく事を、町全体として取り組んでいる所です。リニューアルといっても、主軸は長寿命化の為の大規模修繕になります。ラディアンは建設から20数年経っており、また、災害時の応急救護所でもあるので、これからも長い年月ラディアンを持続させる必要があり、令和2年度に大規模修繕工事実施設計を行いました。ここで新庁舎建設の方向性が固まり、福社会館といった施設も必要になるという事で、併せてラディアン周辺に人が集まりやすい空間づくりを進めることになりました。例えば役場に来た人が図書館に寄ったり、ラディアンに来た人が、図書館の展示を見に行ったりと、人が回遊し集って滞在できるような空間づくりをする事で、人と人との繋がりが生まれ、街づくりに発展していく構想です。

これで決まり、という事ではなく、基本構想の段階であり、建物の枠組みは変えず、中身やレイアウトを変えて、という事です。例えば、図書館が5時で閉まる曜日には、中学生や高校生が学校帰りに2階の学習コーナーが使えない、といった事を解消するために、学習コーナーを図書館から出す事を考えています。今、案として考えているのは、今の絵本のコーナーに学習コーナーを移すなど、今の雑誌コーナーは2階に移し、今のAVコーナーには、「おはなしのへや」と絵本のコーナーを移し、図書館の1階は子育てや児童向けのフロアにし、児童と一般のフロアの棲み分けを行うというものです。図書館に入ったらまず子どものコーナーで、だんだん大人のコーナーになっていくイメージです。図書館のエリアは狭まるかもしれないが、蔵書冊数や開架冊数を減らすつもりはありません。図書館についてはレイアウトを少々変更しますが、そのレイアウトについては案ができたなら皆さんにお見せし、ご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

(教育長) 懸案事項のひとつとして、AVコーナーの存続があります。視聴ブースが故障等不具合で使えなくなってきていますので、そちらのスペースの有効活用も含めてレイアウトの検討が必要です。

事務局より資料3について説明。

(会長) 資料2と資料3の2点がここで出揃いました。まず、リニューアルについてどうでしょうか。課長に図書館に関わる部分を挙げてもらいましたが、今後図書館に関わる部分はある程度検討させてもらえる要素はあるのでしょうか。もう一点、カセットやビデオ、視聴ブースの件は、利用に関わる事であり、様々な課題が出てくるはずなので、リニューアルの件を決定するより先に、整理して、図書館協議会でも検討する必要があると考えます。

(生涯学習課長) リニューアルの細かい点については、実施設計の際に検討することができます。

(会長) リニューアルについては、図書館に関するポイントが分からないと検討できません。ビデオとカセットの貸出は、止めるにあたり何か課題はないでしょうか。課題があるなら、それらを処理してから止めるべきです。

映像資料の媒体は、16ミリフィルム、レーザーディスク、ビデオ、DVDと変遷してきて、図書館も扱う媒体や再生機器を更新してきました。レーザーディスクなど、再生機器の修理も終了していて、所蔵していても活用できない事態が生じています。DVDも将来、終了してしまう可能性はあります。音声資料は、媒体としては今の所CDが主流です。

『神奈川の図書館2022』の統計によると、二宮はDVDの所蔵数が県内4位であり、利用も非常に高く8位です。CDも所蔵・利用共に多い。二宮は町レベルではトップクラス、市立を含めると、所蔵数も利用も高い方です。他の市町村もCDについては力を入れているが、映像資料は所蔵していない館も

あり、大機も DVD はほとんど所蔵していません。ですから、周辺自治体住民の貸出利用も二宮に集中しているはずですが、ビデオも、県内で所蔵している所は少ないですが、再生機器や資料の劣化の問題もあるので、終了するならするで仕方のないことと思います。利用が多いものは、残す可能性が有っても良いかと思いますが。

スペースの問題でいえば、朗読サービス室がありますが、これは、地元の特に視覚障害者に対面朗読サービスをするという事で、通常、図書館を新設する際、どこでも設置していて、ラディアンの開館時にも設置しました。しかし、視覚障害者による部屋の来館利用は実情として少なく、図書館独自で対面朗読専用の部屋を持たなくても良いと考えます。リニューアルのタイミングで、検討してはどうでしょうか。対面朗読については、図書館だけで考えず、福祉会館に入れてもらうという考えもあると思います。

(事務局) 確かに、ビデオテープにしかない内容のもので、利用が見込まれるものもありますが、劣化が激しいため、事故になりかねず、かえって利用者に迷惑をかけてしまうので、部分的に残すような形は難しいと現状では考えています。

(委員) リニューアルやレイアウト変更について考える事は、図書館の先を見据えた事業計画があつてこそだと思っています。以前は、図書館の事業計画の中に重点目標や取組みといったものがありましたが、重点的な取組みの出し方が何年か前に変わりました。以前の方が5年先 10 年先のことも考えて、年毎の重点目標を出し、事業計画を立てていたと思うのですが。

ここで、ラディアンのリニューアルで、図書館のレイアウトを変えるという話が急に出てきましたが、そこはやはり図書館として、今後どういう先を見据えてどういう運営をしていくか、じっくり時間をかけて考えた内容があつてこそそのリニューアルだと思います。図書館としてももちろん考えがあると思いますし、協議会でも皆で意見を出し合つて、十分にゆっくり考えたいです。今年度中に計画というのは、随分急な話で、私はそこで議論が十分できるか懸念しています。図書館協議会の回数は限られますが、以前行っていた勉強会をさせてもらうなどして、図書館の先を見据えたことも学びながら、考えていきたいと思っています。

(事務局) 教育大綱、教育委員会基本方針の中で位置付けられるよう、当年度の重点目標の立て方を3年前に見直しており、入れ込んだ資料をお示ししています。運営方針はずっと変わらず、こちらを基本として施策を考えています。

(委員) 運営方針はもちろん開館当初からずっと変わらないものですが、時代毎に社会状況が変化していくのに合わせ、少しずつ変えて、大事にしていく部分が以前は重点目標として年毎に出ていました。だからこそ、二宮町図書館の運営も変わってこられたと思うのですが、その様な部分がどこに書いてあるのか、この資料では見えづらくなりました。以前はいろんな項目をもっと詳しく書いてあったが、こういう形になったという事ですか。

(事務局) 重点は教育委員会基本方針の中で決めており、図書館に関する部分を抜粋して、本日の資料として出しています。教育委員会事業の点検評価との整合性を図るため、一度整理をして、こういう形にいたしました。

(委員) いずれにしても、様々なことを踏まえて考えていかないと、いいリニューアルにはならないと思います。

(会長) 確かに、委員の言うとおりの重点の出し方が少し変わってきています。教育委員会の方針に合わせて組み替えたということですが、委員が言われたのは、毎年重点を決め、都度直していき、様々な課題を検討して変えていくという流れが、引き継がれていないように感じられるということです。私もそのように思います。以前は、年齢層毎に対策を考える等、もう少し細かく検討を行っていて、教育委員会に提出する為のものというより、図書館を運営していくために毎年見直していくものでした。ですから、以前と同じにできないようであれば、今のやり方の中で、協議会委員に分かりやすいような形にし

ていただきたいです。

(教育長) 今年初めて、町の行政評価で評価しやすいように、教育委員会の基本方針の中で KPI、重要業績評価指標を出すことになりました。指標についても、年度ごとに見直すべきと思いますが、まずは、今までになかったものを出したという経緯があります。資料では、令和5年度の重点的な取組みを3つ出しているが、これに対し具体的な細かな所を挙げています。こういったやり方もみなさんのご意見をいただきながら精査していかなくてはならないと思っています。KPIについても、この数字やこの指標でいいのかといったところも検討してもらい、レベルアップできれば良いと考えています。

(委員) 夏休みは、冷房目当てに図書館へ宿題をしに来る子どもが沢山居ても、おそらく勉強しに来るだけになるのではないかと心配しています。本がすぐ手に取れるコーナーもなく、設備もなく、学習する場所だけ作っても、子ども達は本を読まないでしょう。委員が言われたように、図書館にはその地域の事情に合わせた独自の活動があります。委員は幼児教育が専門なので、そういった事をととても大事に考えておられると思います。私も、図書館は知識の根源であり、それだけ大事な役目があると思っています。小学校で本を読まない子は数学や英語が出来なくなるという話があります。まさに言語能力の問題ですが、親がそういった事を知らないし、本も読んでいないのではないのでしょうか。だから、子ども達の芽を育てるために、色々な所で一生懸命読書を推進しようとしているのですが。

今、うまく自分の事が伝えられない子どもが多いと言いますが、自分の根になる部分がないからだと思います。交流をするコミュニティコーナーを作っても、「しくみはない、管理する人がいない」ではいい場所になりません。ただ、冷房があって勉強ができればよいのではなく、「教育とは何か。何が大事か」よく考えられた上での施設であってほしいものです。

(教育長) 町立の小・中学校は、文科省が推進するコミュニティスクールを令和元年から導入しています。また、最新の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」をうたっていますが、特に対話的という所に課題があります。今の子どもたちの一番の課題は、人同士の触れ合いが出来ていない事です。人と触れ合う機会がどんどん少なくなってきていて、人と話をして自分の思いをきちんと言葉にし、相手の言葉を受け止めて正しく理解していくということが出来なくなりつつあるのです。コミュニティスクールの導入も指導要領の改訂も、人との触れ合いをどう確保するかが課題です。コミュニティスクールで地域の方との触れ合いを積極的に行う、小中一貫教育では小学校1年生から異文化、異年齢との交流を深めていくなど、子ども達が少しでも様々な形で人と交わる所を作ろうと画策をしている所です。子ども達が自然にも触れ、人同士の触れ合いの中で協働作業を行ったりすることが大事です。これからの世の中に求められるのは調整力であり、また触れ合って話して、伝えて伝わって、互いに高めあう事が、人間社会を今後どうしていくという SDGs にも関係してきます。

知識や技術は、AI や ICT に助けられる所が大いにあるが、本を読むことは自身の心の成長のために必要なことです。リニューアルで、コワーキングスペースを作る場合、利用している人がいつでも図書館を借りられればいいのですが、難しければ、工夫をして、例えば手続きをしなくてもいいような本を置くような方法はあるでしょう。また、あのスペースを若い人たちが集まって何かする場所にしたいとも思います。学校や家以外の自由スペースで誰かと一緒に何かできる場所を町が提供する事も触れ合いを増やすための一つの方策であり、町の魅力にもなると考えます。それらが、思いやりの心を育てるといった事が少しでも繋がって行って欲しい。ラディアンは、元々人が集うコンセプトで作られています。人が集まる場を町が用意して、そこでお茶やコーヒーを飲んだり、学びのスペースとなったり、各自が思い思いに憩う、そこを今回のリニューアルのコンセプトとして拡充できればと考えています。県内でもかなり認知されている、この町の自慢の施設をさらにレベルアップし、「二宮のラディアンまた良くなったね」と言ってもらえるようなものなるよう、もっと活用しやすくし、さらに人が集えるような場にしたいのです。

(委員) 交流スペースは有用だと私も常に言っています。そこに図書館がどう繋がるかということが大事です。おしゃべりでも、ディベートでも何でも知識やデータを自分で持っていなければ議論が出来ず、人の話にすぐ丸め込まれてしまいます。自分だけ本を読んで本の虫になって話が出来ないというのは困るが、おしゃべりだけ出来て内容が全然無いというのも困ります。自宅に本があればいいのですが、無い家も多いと思うので、本にアクセスできる環境が必要だと思っています。町の図書館は絶好の

場所です。図書館が仕組みづくりに関わって、場所と仕組みの両輪が上手く回るようにしてほしいと思います。

(会長) 「全ての町民が利用できるような場所を作れるか」ということが、リニューアルの大きなテーマになるでしょうか。二宮の図書館は、今、年間入館者数が13万人強で、町民一人当たり年5回利用している計算で、非常に利用度が高い施設です。町民が年5回も使う様な施設は、他に無いと思われます。利用状況が落ちているといっても、まだまだ利用されています。学校図書館や保護者といった様々な層と連携をすることで、できるだけ多くの町民が町内の施設を利用できる体制を作るべきだと考えますが、既にラディアンは、町内で誰しもが一番利用しやすく、実際一番人が来ていて、非常に貢献しています。これまでそういう方向で来ているのですから、今までの良い面は残していくべきですし、そもそも利用度を上げていた町民が不便になって利用しなくなるような事のないようにリニューアルをしてもらわないと困るということになります。

図書館も、利用を落とさない努力をしなければなりません。高齢者は現在でもよく利用しているので引き続き使ってもらえるように、子どもは現状の取組に加えて利用に繋がる仕掛けをしていく、更には、今図書館を使っていない層への取組も必要です。町内のいろいろな所と連携、協力を既にしていますが、更に広げていく、図書館側の貢献も必要でしょう。ただ、図書館も役場職員も人数は多くはないので、職員だけで全町民向けにサービスする事は難しいでしょう。そういった意味でも、様々な立場の町民の協力が不可欠と考えます。

リニューアルは、単にスペースをどうするというにとどまらず、使いこなせるような形にしていかなければなりません。今日の段階では、仮称福祉会館がどんな施設になるのかは見えてきません。先ほどからお話に出ている大和市のシリウスは、生涯学習センター機能に加えて、福祉やその他の要素も持つ施設です。二宮ではどのような施設になるのか、これから明らかになっていくと思いますから、順次お知らせいただくようお願いします。

ここまで、リニューアルと、視聴覚コーナーと、それから委員が言われた事業の重点について話してきました。

重点について、教育長も言われた様に町の方針の中でやっていくことは分かりましたが、今年度課題となった事業を来年度に挙げて、進捗状況がどうかを示すには、どう変えていけばできるか、事務局で検討をお願いします。今年度分は、今年度の実績を踏まえて来年度どうしていくつもりかを加えてもらえばよいでしょう。今年度やった具体的な事を、来年度にどう引き継ぐのかが分かるようにしてください。ティーンズコーナーについても、せっかくいろいろ議論して進めてきたのに、途中になってしまっているのです。

(事務局) 第2回協議会に向けて検討させていただきます。

(委員) 今まで重点を決めて取り組んできて、直近ではティーンズコーナーの充実を大きな重点として進めてきていました。しかしながら、利用統計をみると、中学生が1.2%、高校0.7%、となっています。今は、何でもタブレットで済ます時代なのかもしれませんが、ティーンズコーナーの充実は、学習コーナーとも関連があると思います。館内のレイアウトを変えるにしても、やはり、今まで重点として検討してきた事をふまえて、考えていくのがいいと思います。今までの経緯や、利用の状況、時代の流れだとか、きっといろいろな状況が変わったから「集えるところを作ろう」という町の考えだと思いますが、図書館についても同じで、経緯や状況、時代の流れなど十分に考えた上で、もし必要があればレイアウトを変更する、という流れだと思います。

(会長) 重点については、委員が言われたように、将来的に引き継げる要素を残していかないといけませんから、よく検討してもらい、あまり変えないで報告時に中身が分かるように留意していただくようお願いします。他にご意見はありますか。

(副会長) ラディアンのリニューアルという欄に、南側のラウンジスペースを拡充し、コワーキングスペースを置く、と明記してありますが、これは、「町の方針でこのような形で進めていく」とある程度方向性が決まっているのでしょうか。

(生涯学習課長) 先ほどもお話ししたが、図書館の開館時間にとらわれず、学習スペースをおくということです。今ラディアン南側のラウンジが、中高生でいっぱいになっているということもあります。コワーキングスペースが町内にも出来ていて、今後より必要となるだろうから拡充していく方がいいのではないか、そうすることでよりラディアン周辺に人が滞在する空間ができていくのではないかとということで、現在案としてはこれで進んでいます。

(副会長) ということは、今図書館の子どもの本のスペースがある部分に手を付けるという事ですか。

(生涯学習課長) はい。

(副会長) あの部分は、「子育てを優先している二宮町」といったイメージで、外から見てもとてもいいスペースだと私は思っています。あの形がとても良く、いろいろ外に発信できる場所としてあるのに、そこをなくしてしまうという事でしょうか。

(教育部長) 絵本のコーナーは、現在のAVコーナーの所に場所を移すというイメージです。

(副会長) 奥まっせまい、今の場所より見えづらいと思いますが、位置関係は大体決まっているということですか。

(教育部長) 奥まるというより、入って正面になるので、出入口からまっすぐに見える場所と捉えています。素案であり、たたき台といったようなものです。

(生涯学習課長) 1階を子育て、児童のスペースにしていきたいと考えています。

(副会長) 今の図書館からは完全に形が変わる前提で進めるということですか。

(会長) その発想だと、AVコーナーの件を先に処理しなければならないと考えます。AVコーナーについての考え方を先に整理してスペースを空けないと、レイアウトの変更に繋がりません。AVコーナーを今後どうしていくのか見通しがあり、その上でのリニューアルだと思います。

館内視聴ブースについて、皆さんのご意見はいかがでしょうか。私としては、先ほども言いましたが、廃止は止むを得ないかと考えています。

(委員) 先程から話題に挙がっているシリウスについてです。集いの場所を提供している施設であり、勉強をしに来ている子がほとんどの様です。もちろん本を読んでいる子もいますが、少数派のようです。大和市は日本一の図書館とうたっていますが、館全体の来館者数を言っているのであって、本の貸出数はそれほどではありません。「シリウスはいい所だ」と皆さん言われますが、一番上の階にコミュニティの場があって食事も出来、学生たちが集まっています。各階に閲覧スペースがあり、勉強している子がいる、という感じで人が集まっているので、涼しいから来るだけの子は沢山居るのだろうと思います。

二宮は集う場所があまりないので、人が集まるようにすること自体は、中高生が集まってそこから何か進められる第一歩で、とても良い事だと思いますが、図書館利用との兼ね合いを考えると難しい面もあり、二宮町の図書館の行く末を案じています。

図書の場合、古くなったものは廃棄して新しいものに入れ替えるものであり、予算が十分にあれば、どんどん新しい本を買って、入れ替えていけるのですが、二宮町の図書館は限られた予算の中で、職員の方が吟味して選書し、何とか入れ替えて、良い本を揃えていると思います。視聴覚資料は高価なものが多く、限られた予算の中での買替えは難しいと思われれます。せっかくビデオの所蔵があり、もったいないという話もありますが、どんどん古くなり、すべてを残すことはできないので、どこかで処分していかなければならないでしょう。

(会長) 館内の視聴ブースは、資料の貸出利用ができれば廃止という事でよいですか。

(委員) 視聴ブースは、機械が古くなり、今どの図書館でも負の遺産になっていて、どんどん終了して  
いっている様です。二宮もそれで良いと思います。

(会長) いろいろ検討して変えていかなければいけないことだと思いますが、AV コーナーがリニューア  
ルと絡むという事であれば、ある程度先行きも決まっていきそうです。まずはAV資料の利用を貸出に  
絞って、視聴ブースは廃止するという事によろしいでしょうか。

(事務局) コロナ禍で滞在時間を短縮するのに当たり、ブースを休止しました。ほとんどの資料が貸出  
可能であり、貸出利用してくださいと呼びかけ、ここまで約3年間休止していました。

(生涯学習課長) このスペースを活用しないまま、3年もの間休止していたという事になります。再開  
を希望する声もほとんどなかったという事と、今所有している再生デッキ自体が使えるものがわずか  
で、古くて修繕も出来ない状態です。ビデオテープも、劣化しデッキにテープが絡まりかねない状  
況や、テープが切れた時の弁償の扱い、色々そういった問題もあるので、これを機に取り扱いを終了し  
たいと考えています。視聴ブースは、本来ならば、コロナが5類になったタイミングで再開するのが筋  
かも知れないが、これまで3年利用がなかったということと、機器が劣化しているという面からここで  
終了と決定させていただきたいと思います。

(会長) 今の時点でリニューアルの話があるので、CD と DVD の貸出のみ残し、館内利用の施設は廃止し  
ていくということによいでしょうか。

(事務局) 資料3の件は了承でよろしいでしょうか。

全員了承。

(委員) リニューアルについてですが、このリニューアルは一体何のためなのかしっかり考えなければ  
と思います。若い世代のためだとしたら、どうすればその世代に必要な情報が伝わるかを考えた上での  
リニューアルでなければならないでしょう。私は「子ども達が集まってきたときに本を読んでいる人の  
姿を見るなどの接点があればいいな」と思っています。今のラディアンは、図書館とモールの境がガラ  
ス張りとはいえ区切られているので、「図書館の中に子どもたちが入らないと本を触らない」構造です。  
そうではなく、まわりに本棚があるけれど、本を読まなくてもいい、自由にしていていいという造り  
になったら良いと思います。先ほども自宅に本があればとお話しましたが、家族が本を読んでいる状況  
がないのなら、外で、本を読んでいる人が目に入り「こういう情報の入れ方があるな」という事を見て認  
識するチャンスになってほしいと思います。

せつかく予算をかけるのであれば、子ども達、次の世代に還元できる様なリニューアルに是非して  
いただきたいと思います。「本を読め」と強制するような事ではなく、本を読む友達がいたらその子に聞  
いたりできるスペースと本に触れる仕組みが両輪としてうまく回っていく、良いリニューアルにして  
ください。

子どもに関わる人は、皆さん苦労されています。ラディアンは今でも良い場所であり、良い仕事を  
していると思っています。文化を継続していくために、町も細かい所まできちんと考えていただきた  
いと思いますし、図書館の運営計画も、教育委員会の枠組みもあるでしょうが、細かなニーズに即した運  
営になる様、図書館主導の内容になってほしいと思います。

(生涯学習課長) 全国的に人口減の課題があり、二宮も例外ではなく、財源の問題もシビアな状況です。  
先ほどから、図書館はよくやっていると言って頂き、私も図書館がとても一生懸命やっているのはよく  
分かっていますが、もっと対外発信し、人を呼び込むことを考えていかなければと思っています。平日  
の昼間は、ラディアンの図書館以外の所はあまり人が居ない状況があります。ですから、ラディアンに  
もっと気軽に集える環境を作った上で、図書館側から呼び込むしくみを作りたいと考えています。

滞在型という事でいえば、コロナ禍で滞在スペースを減らしていましたが、コロナが5類に移行した  
タイミングでモールにソファを出してみたら、置いた途端に使用されていました。このようなことから

も、より滞在しやすい形にできればと思います。今日はレイアウト的なことは示すことができませんが、今は検討が始まったばかりの所であり、なるべく早めにたたき台のような形でお示ししたいと思います。財源も限られているので、ソフト面での工夫などもご意見いただきたい所です。財政的な面では、図書購入費は維持したいということも考えています。人口が減っていく中で予算を維持できれば、むしろ全体の割合としては増えている事になります。

協議会の回数が限られてはいますが、都度、情報提供をしていきます。

(会長) リニューアルの方はまた情報が出たら早めにお示しいただき、協議会でも検討するという事でよろしいでしょうか。また、委員の言われていた重点については、先ほどもお願いした通り検討をお願いします。

(委員) 先ほど少し話しましたが、次の協議会まで間も空きますので、参加可能な人だけで、少しでも勉強するような会を開いて頂けないでしょうか。

(会長) 夏に1回か2回、任意参加の勉強会をしてもよいと思うがどうでしょう。以前、重要案件があった際に3回ほど開いたことがありますね。今回もそんな感じで、やっておいた方がよいかも知れません。次の協議会が10月という事なので、8月頃を開くということで調整をお願いします。その他、特になければ進行を事務局へお返しします。

#### 4 閉会

15時31分終了